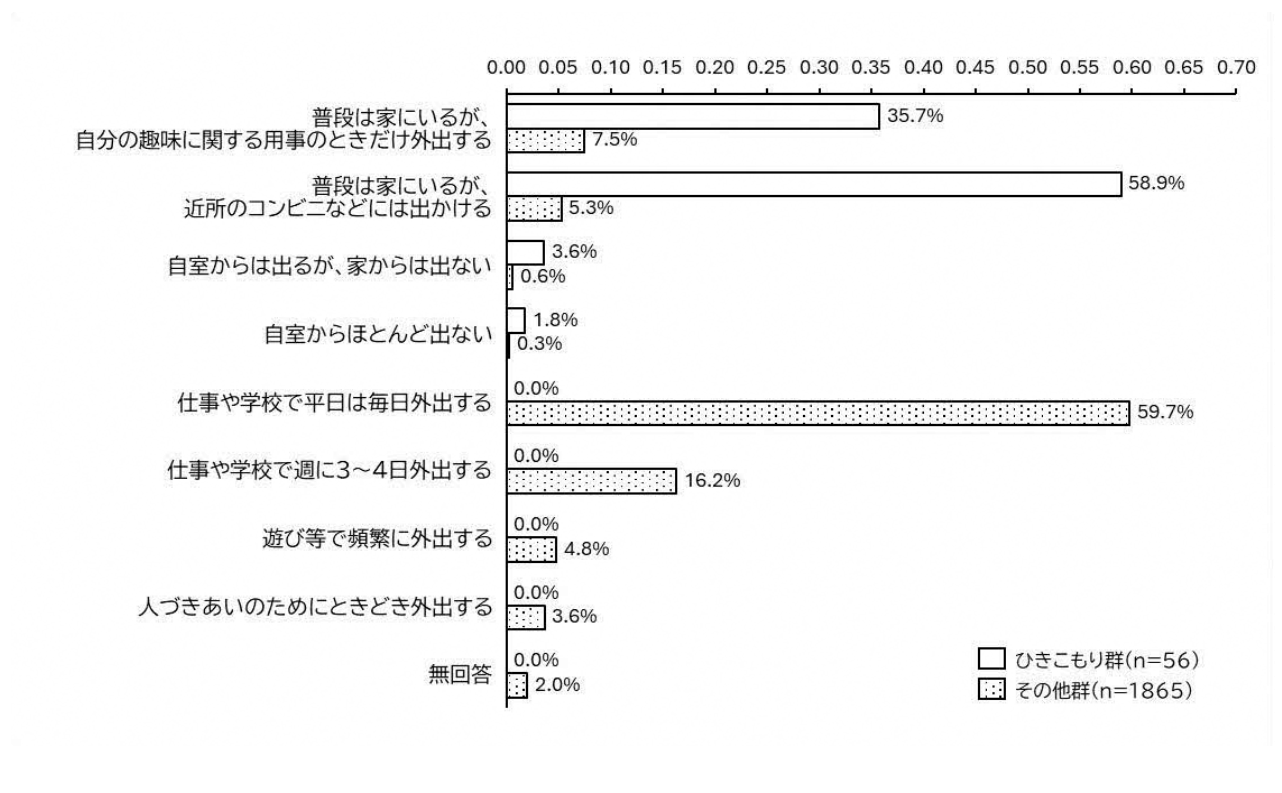


1.2 外出

Q24 普段どのくらい外出するか



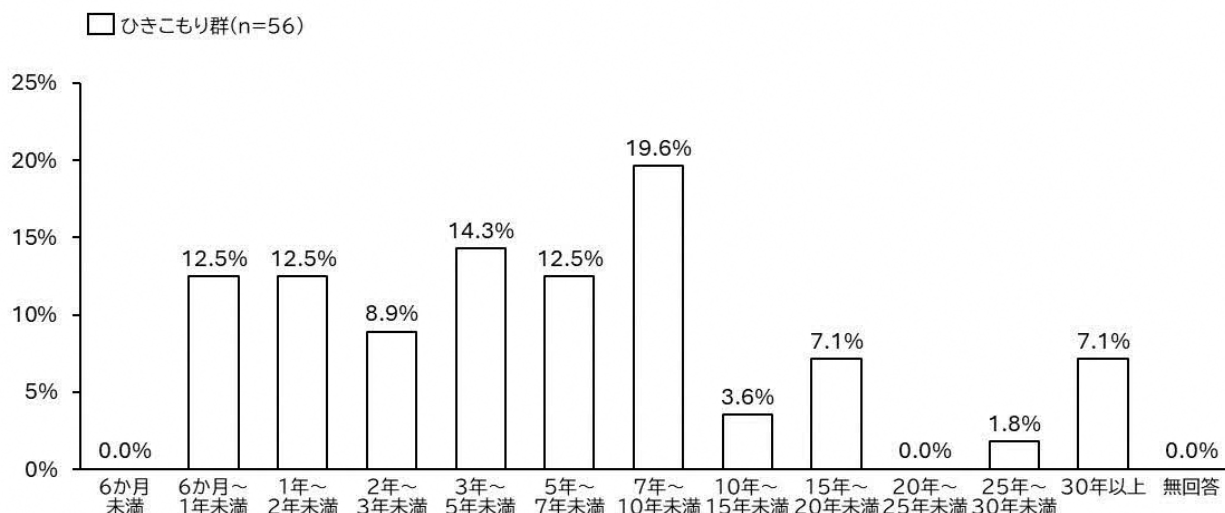
※Q24 の設問は、ひきこもり群を定義するために使用している。

※Q25～27は、Q24においてひきこもりの状態である者(「1 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出」「2 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「3 自室からは出るが、家からは出ない」「4 自室からほとんど出ない」を選択した者)のみが回答する項目となっている。

本報告書ではその中でもひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

Q25 現在の外出状況になってどのくらい経つか

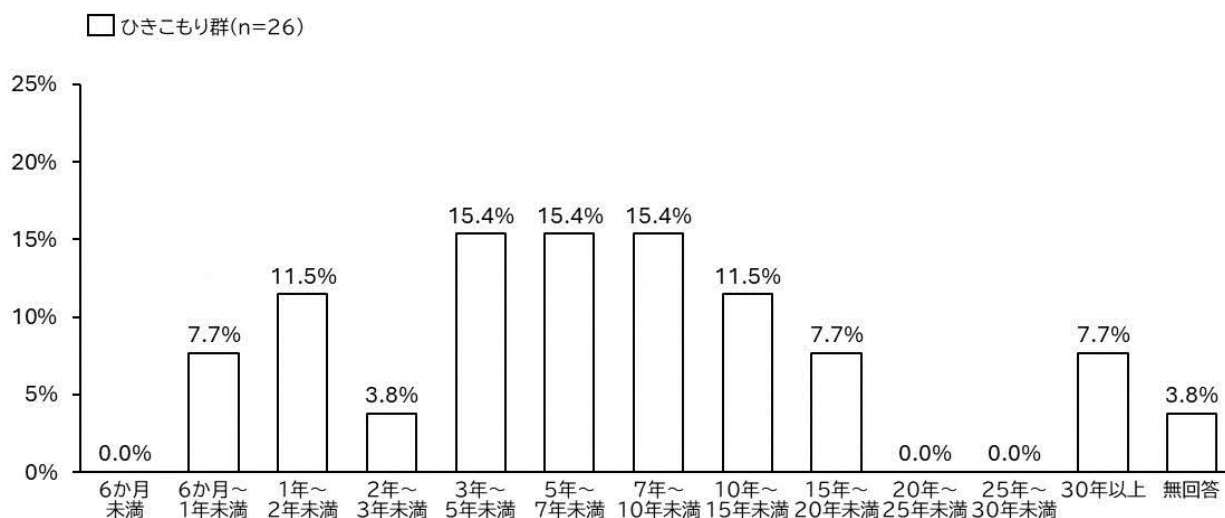
ひきこもり群(n=56)



5年未満が48.2%、5年～20年未満が42.8%、20年以上が8.9%となっている。

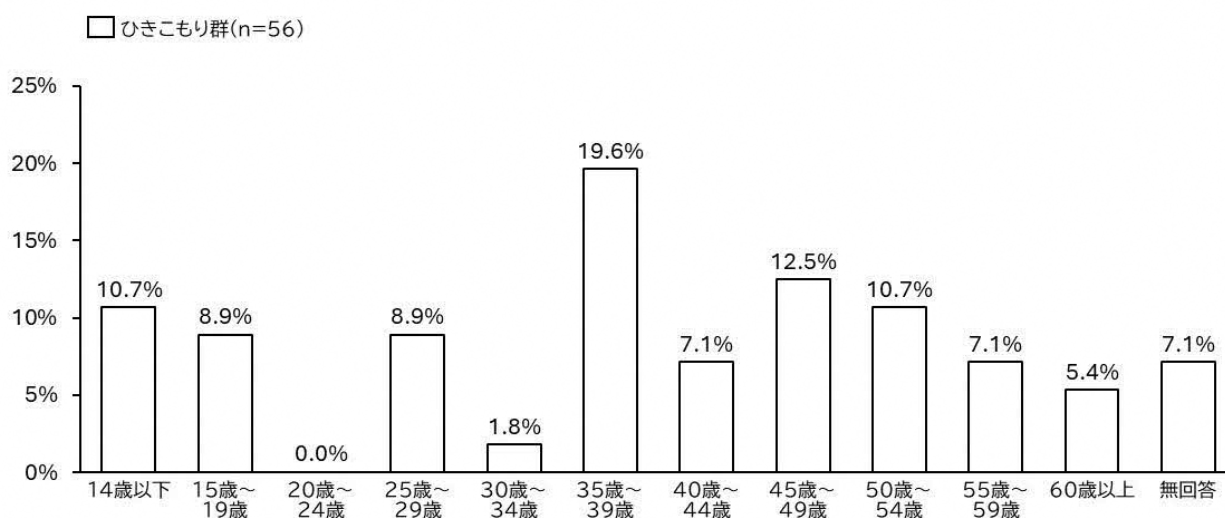
参考:前回調査

Q 現在の状態となってどのくらい経ちますか(○はひとつだけ)。



Q26 現在の外出状況になったのは何歳の頃からか

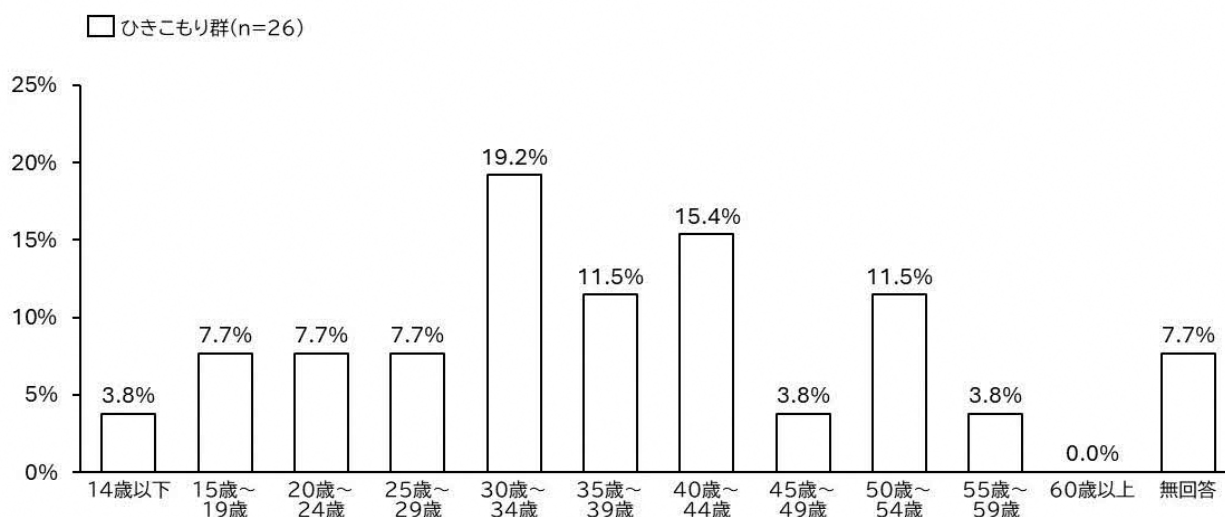
ひきこもり群(n=56)



19歳以下が19.6%、20代が8.9%、30代が21.4%、40代が19.6%、50代が17.8%、60歳以上が5.4%となっている。

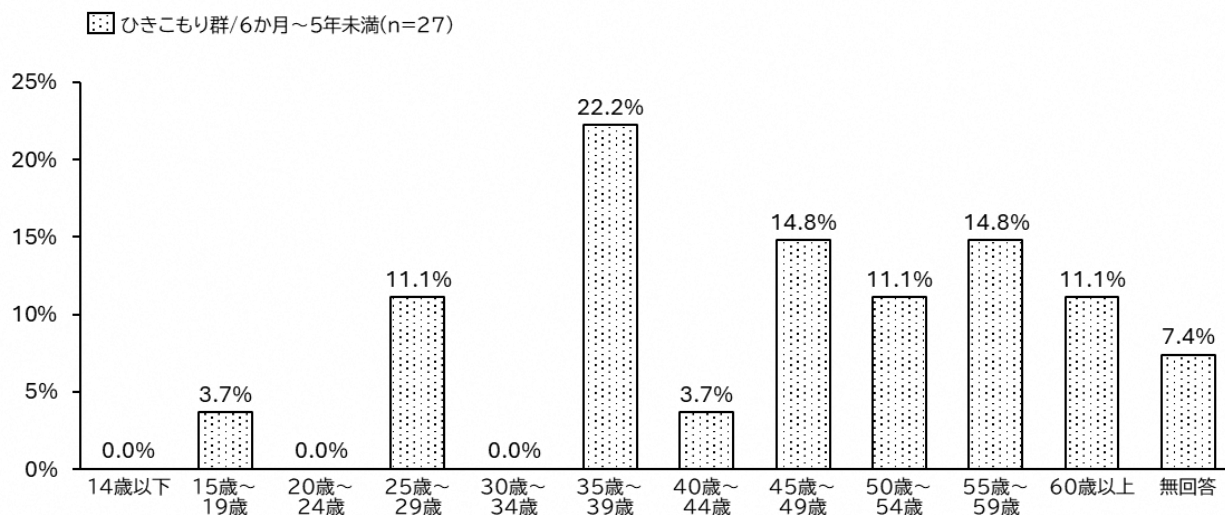
参考: 前回調査

Q 初めて現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか(数字で具体的に)。

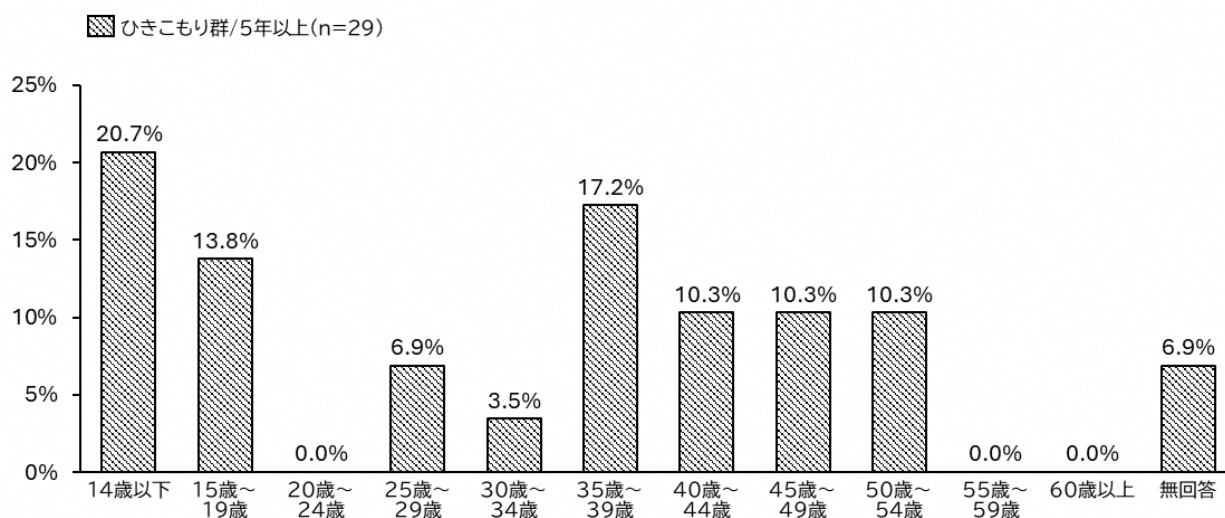


Q26 現在の外出状況になったのは何歳の頃から × Q25 現在の外出状況になってどのくらい経つか

ひきこもり群/6 か月～5 年未満(n=27)

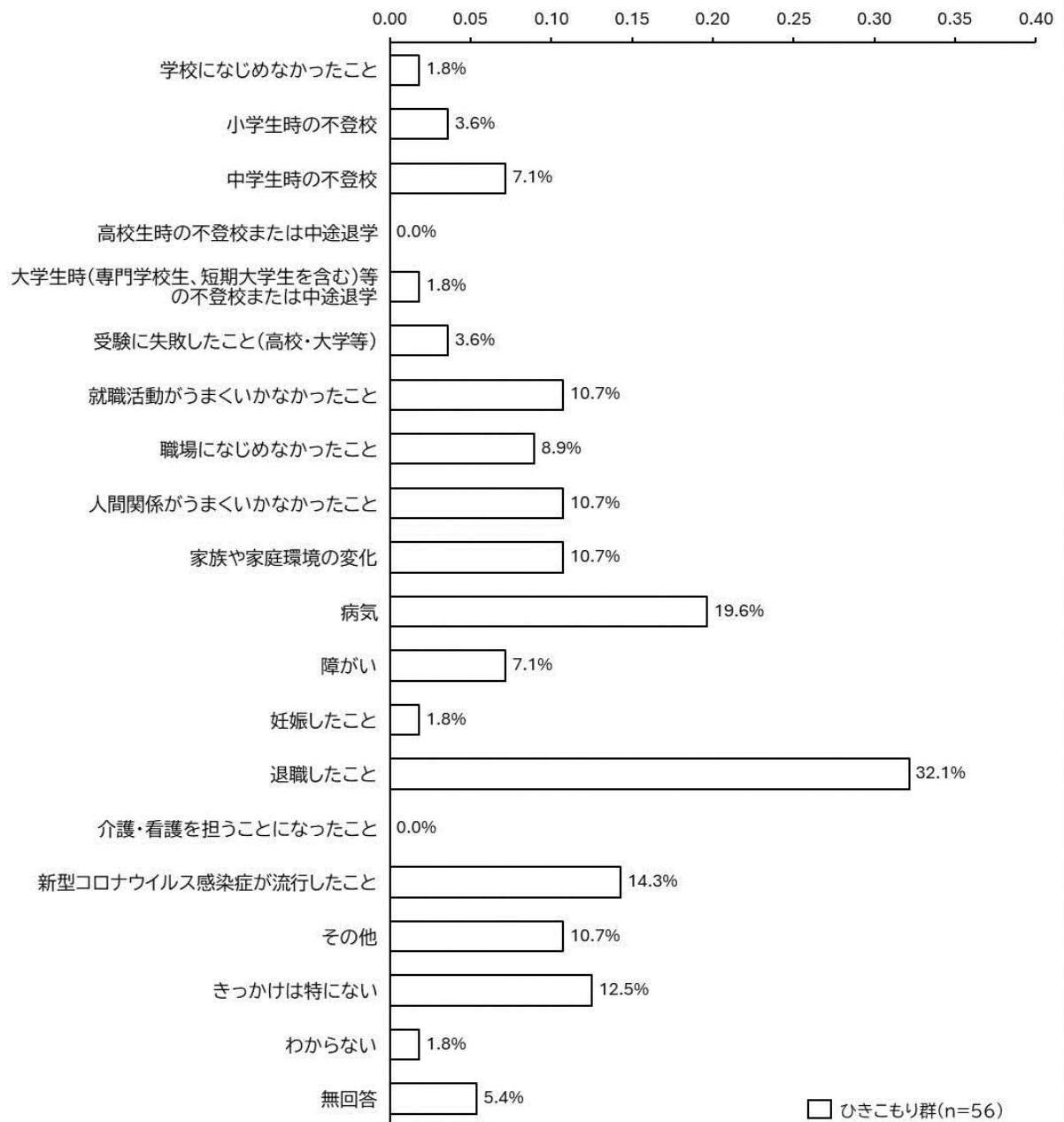


ひきこもり群/5 年以上(n=29)

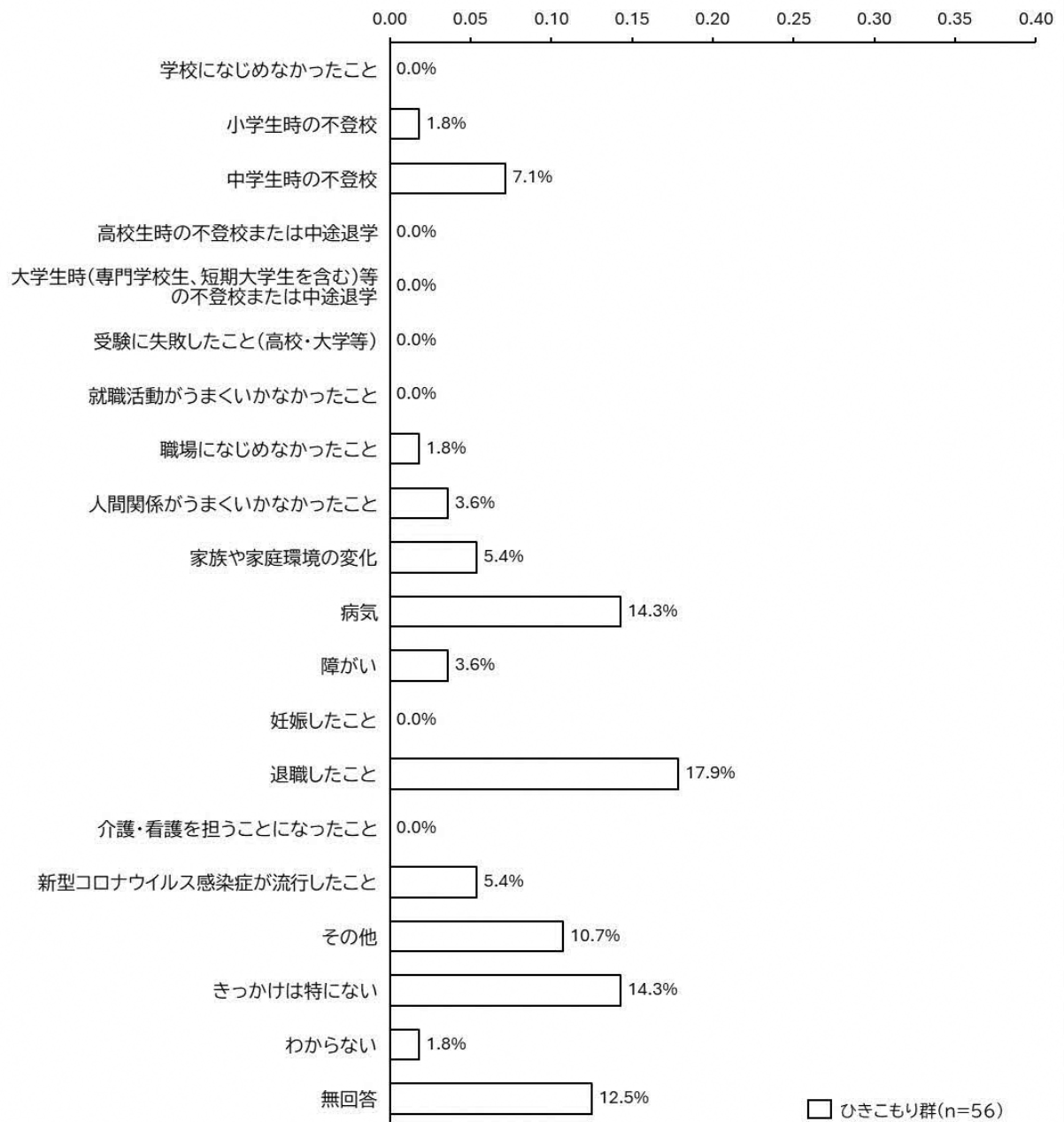


※外出状況が現在の状態になってからの期間が「6 か月～5 年未満」の群において現在の外出状況になった時期が「14 歳以下」0%、同期間が「5 年以上」の群で「60 歳以上」0%となっているのは、本調査は 15 歳から 64 歳以下の者を対象としているためであることに留意する必要がある。

Q27 外出状況が現在の状態になった主な理由(複数回答)



最も大きな理由

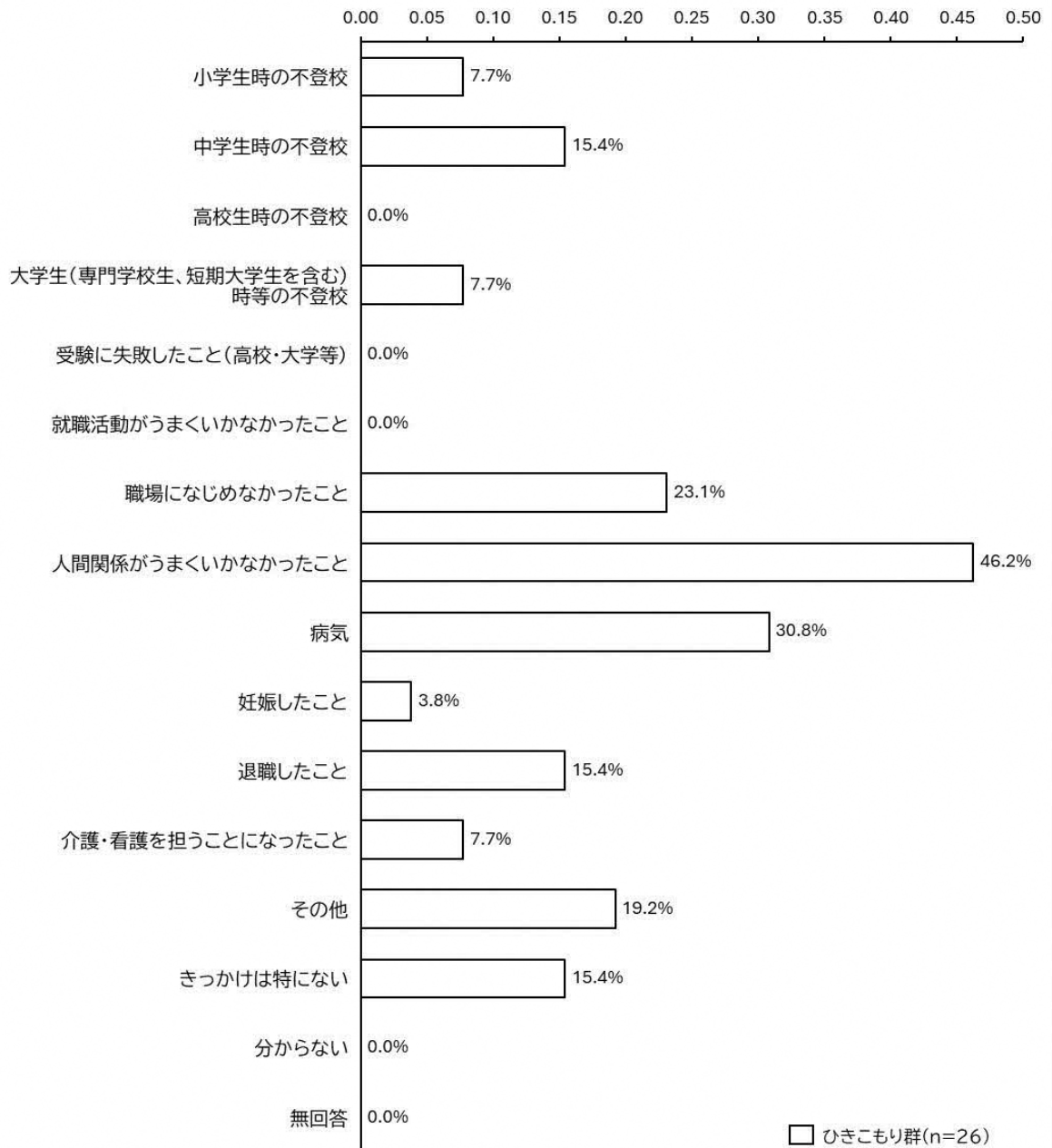


ひきこもりの状態になった理由として「退職したこと」が 32.1%で最も多く、次いで「病気」 19.6%となっている。

また、ひきこもりの状態になった最も大きな理由としては「退職したこと」が 17.9%で最も多く、次いで「病気」「きっかけは特にない」がそれぞれ 14.3%となっている。

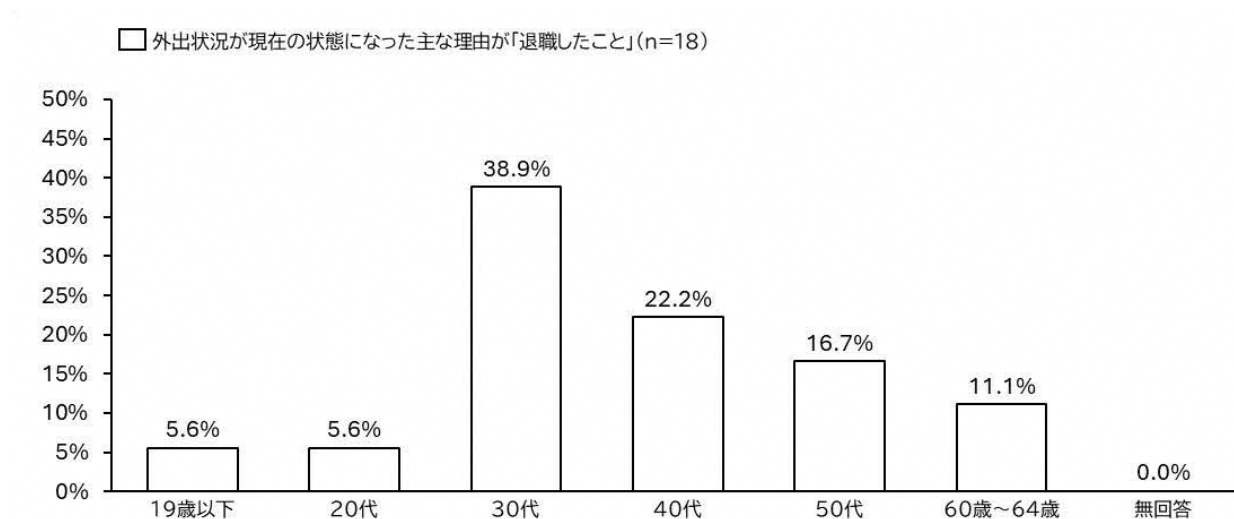
参考: 前回調査

Q 現在の状態になったきっかけは何ですか(○はいくつでも)。



Q27 外出状況が現在の状態になった主な理由(複数回答) × Q2 年齢

「退職」が理由で外出状況が現在の状態になった人の年齢

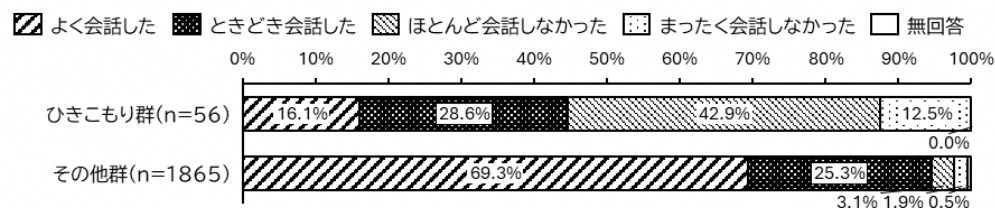


ひきこもり群のうち、退職が理由で現在の外出状況になった人は、「30代」が38.9%で最も多く、次いで「40代」22.2%となっている。

一方、「60歳～64歳」は11.1%となっている。

1.3 家族以外の人との会話

Q28 家族以外の人と会話したか(最近 6 か月)

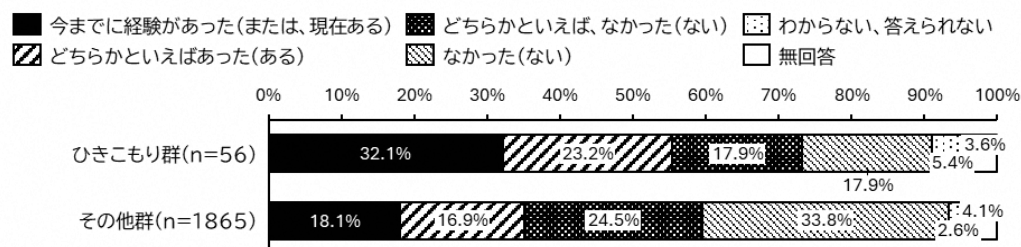


ひきこもり群では『会話した』（「よく会話した」＋「ときどき会話した」）が 44.7%、
『会話しなかった』（「ほとんど会話しなかった」＋「まったく会話しなかった」）が
55.4%となっている。

その他群は『会話した』が 94.5%、『会話しなかった』が 5.0%となっている。

1.4 日常生活や社会生活を円滑に送れなかった経験

Q29 日常生活・社会生活を円滑に送れなかった経験



ひきこもり群では『あった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえばあった（ある）」）が 55.3%、『なかった（ない）』（「どちらかといえば、なかった（ない）」＋「なかった（ない）」）が 35.8%となっている。

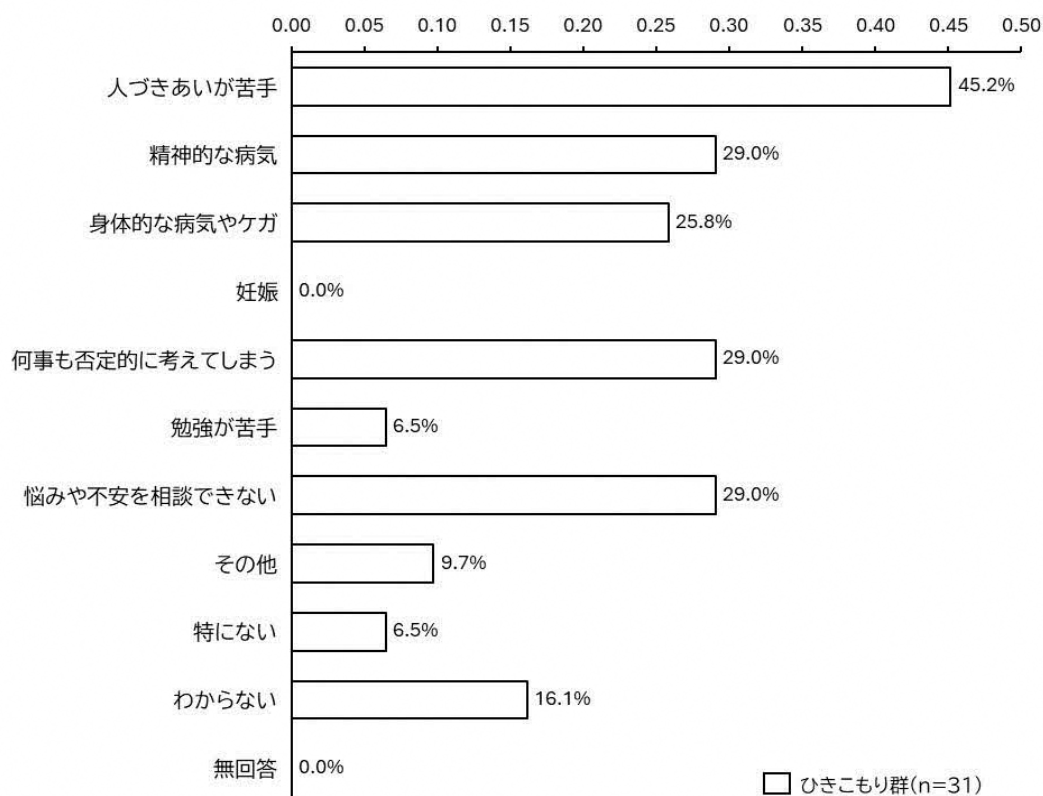
その他群は『あった（ある）』 35.0%、『なかった（ない）』 58.3%となっている。

※Q30～32 は、Q29 において日常生活や社会生活を円滑に送ることができなかった経験がある者(「1 今までに経験があった(または、現在ある)」「2 どちらかといえば、あった(ある)」を選択した者)のみが回答する項目となっている。

本報告書ではその中でもひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

Q30 日常生活・社会生活を円滑に送れない原因(複数回答)

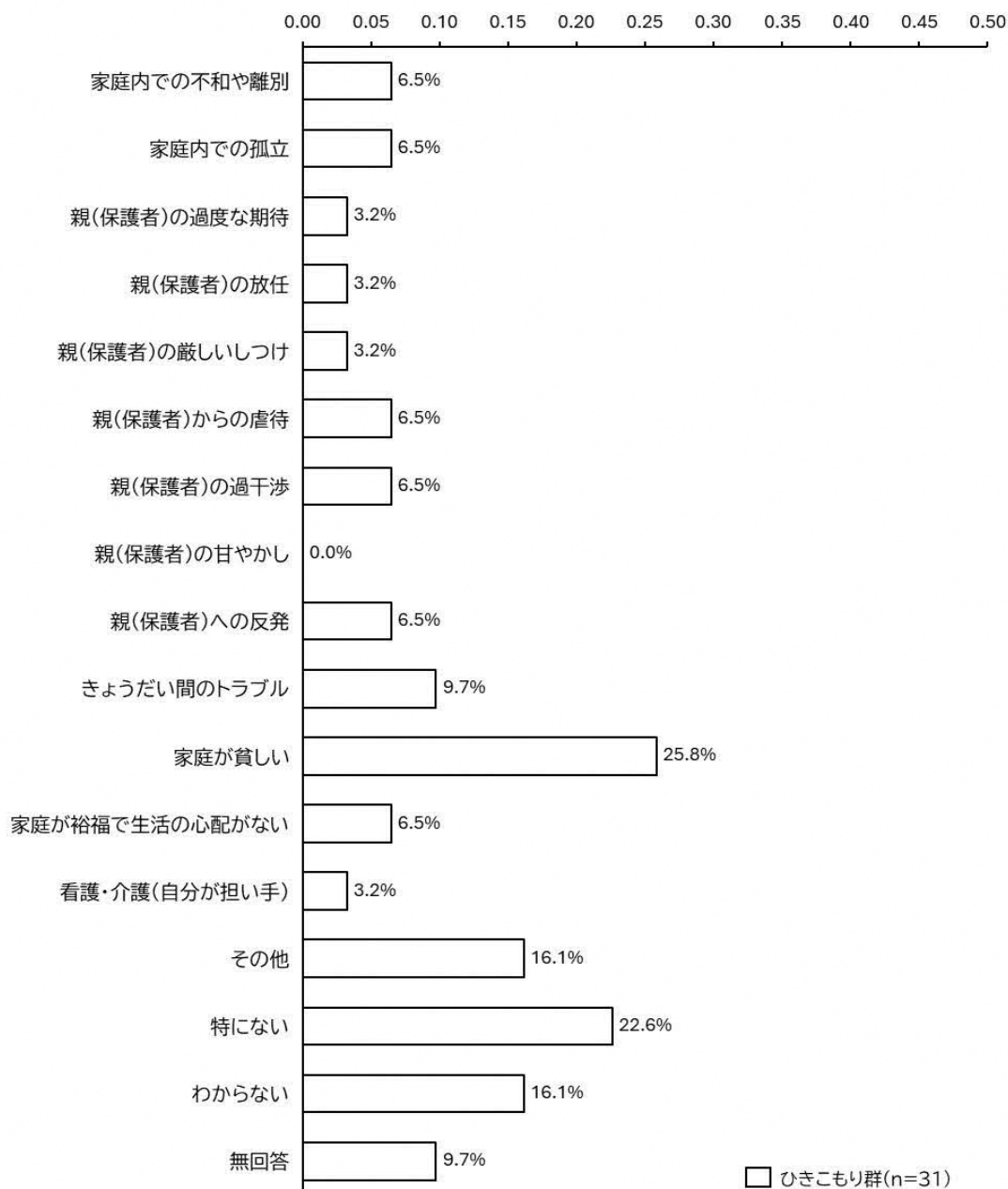
(1) 自分自身について



「人づきあいが苦手」が 45.2%で最も多く、次いで「精神的な病気」、「何事も否定的に考えてしまう」及び「悩みや不安を相談できない」がそれぞれ 29.0%となっている。

Q30 日常生活・社会生活を円滑に送れない原因(複数回答)

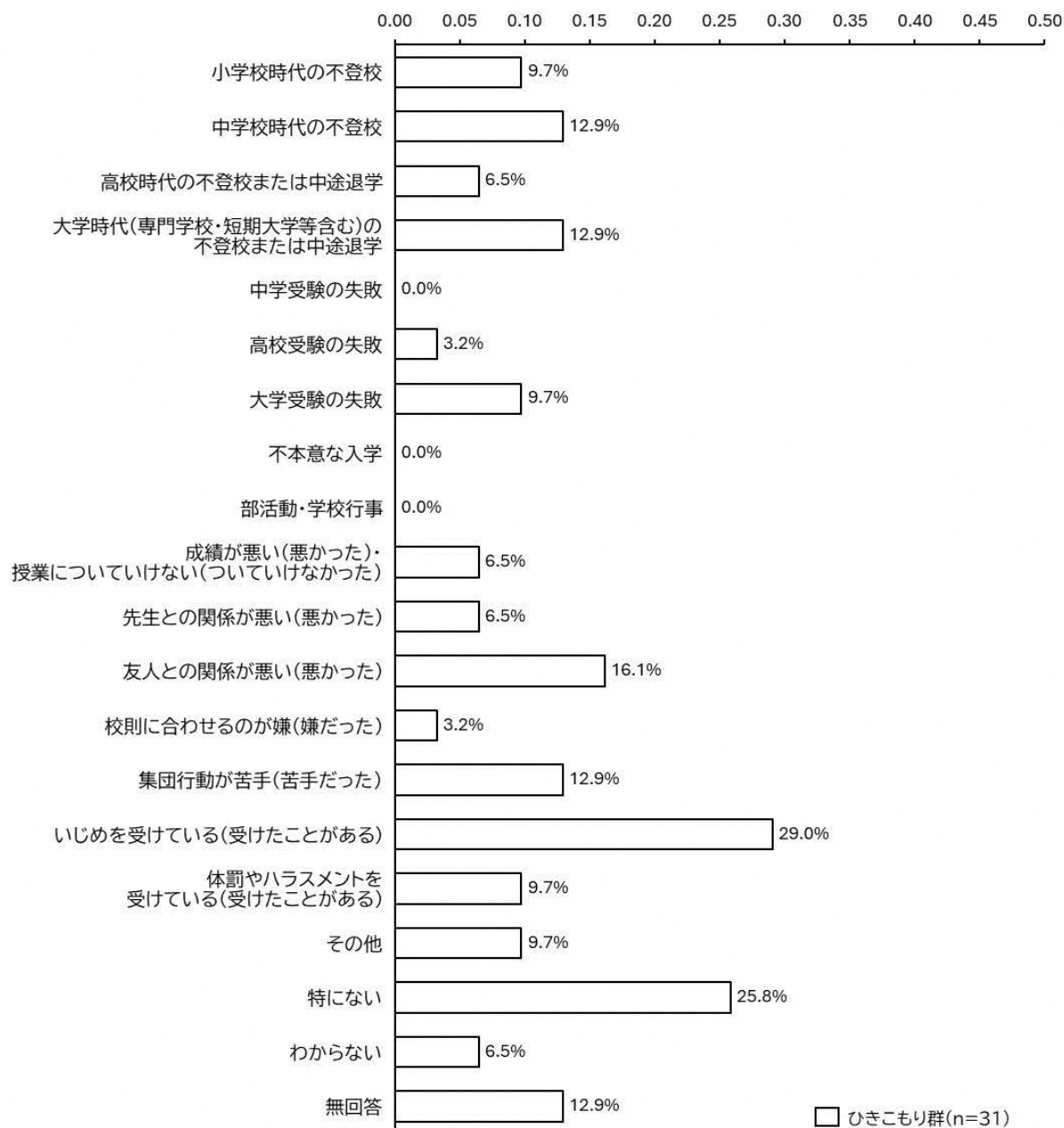
(2) 家族・家庭について



「家庭が貧しい」が 25.8%で最も多い。「その他」、「特にない」、「わからない」を除き、その他すべての選択肢が 10%以下となっている。

Q30 日常生活・社会生活を円滑に送れない原因(複数回答)

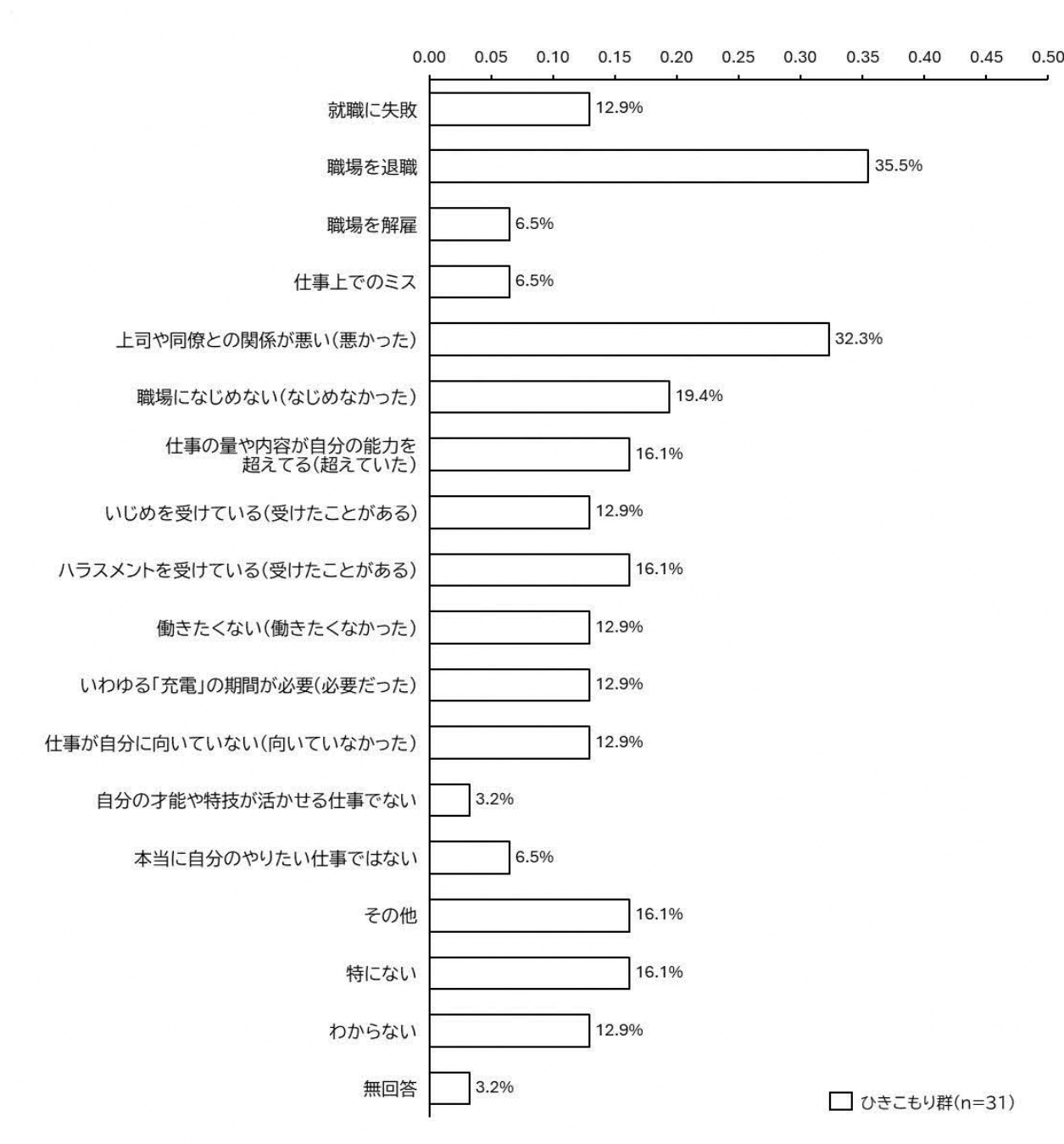
(3) 学校について



「いじめを受けている(受けたことがある)」が29.0%で最も多く、次いで「特にない」25.8%、「友人との関係が悪い(悪かった)」16.1%となっている。

Q30 日常生活・社会生活を円滑に送れない原因(複数回答)

(4) 職場・仕事環境について



「職場を退職」と「上司や同僚との関係が悪い(悪かった)」の関係

		上司や同僚との関係が悪い(悪かった)		合計
		選択	非選択	
職場を退職	選択	7	4	11
	非選択	3	16	19
合計		10	20	31

「職場を退職した」、「上司や同僚との関係が悪い（悪かった）」がそれぞれ 35.5%、32.3%で多くなっている。また、「上司や同僚との関係が悪い（悪かった）」を選択している者は、「職場を退職」も選択している割合が高い傾向がある。

Q30 日常生活・社会生活を円滑に送れない原因

(5) 現在の状況に至った思いや背景

以下では回答の一部を抜粋した。なお、基本的に原文のまま掲載しているが、回答から個人が特定できないよう一部加工している。

ホームレスは、年もあり、体調不良にもなり兼ねないから…。又、一文無しだったから…。

思い付く事といえば、高校合格後の「燃え尽きた」感覚を、ずっと引きずり続けていた事ぐらい。それが大学受験、浪人生活、大学生活の中でわずかに残り続けていた様な気がする。

人とのコミュニケーションが苦手な相談等をするのが難しいです。また、ストレスがかかる状況だと逃げ癖が付いています。

1日の仕事の日誌（パソコン入力）に記入する時に、飛蚊症の症状が出てきた事と歯が少年期から悪く、食事時間を守りながらの休憩がしづらかった事と人間関係も少しあります。

勤めていた会社が廃業したため職を失い、その後母の体調が悪くなり、働くに働けない状況がありました。現在は、少し体調もよくなったので職を探していますが、また、介護する状況になったらと思うと仕事をやめなければいけないのでは？と考えてしまい、なかなか決心が付きません。

現在は問題ないですが30代の10年間で「給与が良くないのにストレスが多い仕事で買い物依存になり立ち行かなくなった。」買い物にリボ払いを使うなど悪循環になった。

不眠症から始まり、階段での転落による怪我や、静養中に体重が増えたと同時に筋力が衰えたことによる腰痛による悪循環。

働く必要を感じない、意欲がない、切羽詰まっていない。
外出や通勤等（それを含む社会生活と生活リズム）がストレス。
精神安定剤を望んでいたり、好んで引きこもっているのでもあまりネガティブに捉えていない。
仮にフルタイム出勤の社会生活を送って居たとしても休日は引きこもっていたい。
積極的に望んでいないので積極的な行動が出来ない。

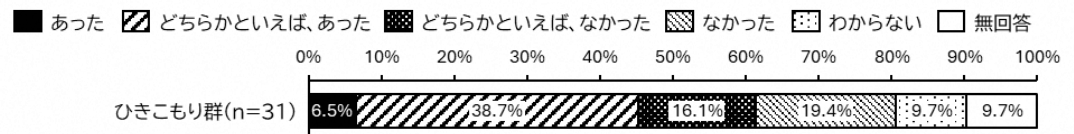
それまで順調な生活だったが、コロナ禍の影響で会社の売上低下と共に歩合給だったため給料が半分以下に減少。

当時結婚を考えていたがお金がないことから破談となり、追い詰められ自殺未遂。
そのまま精神病棟に1ヶ月強制入院となり、以後生活保護で療養中。

コロナ禍による業績悪化で倒産

1.5 日常生活や社会生活を円滑に送れなかった状態が改善した経験

Q31 日常生活・社会生活を円滑に送れなかった状態が改善した経験

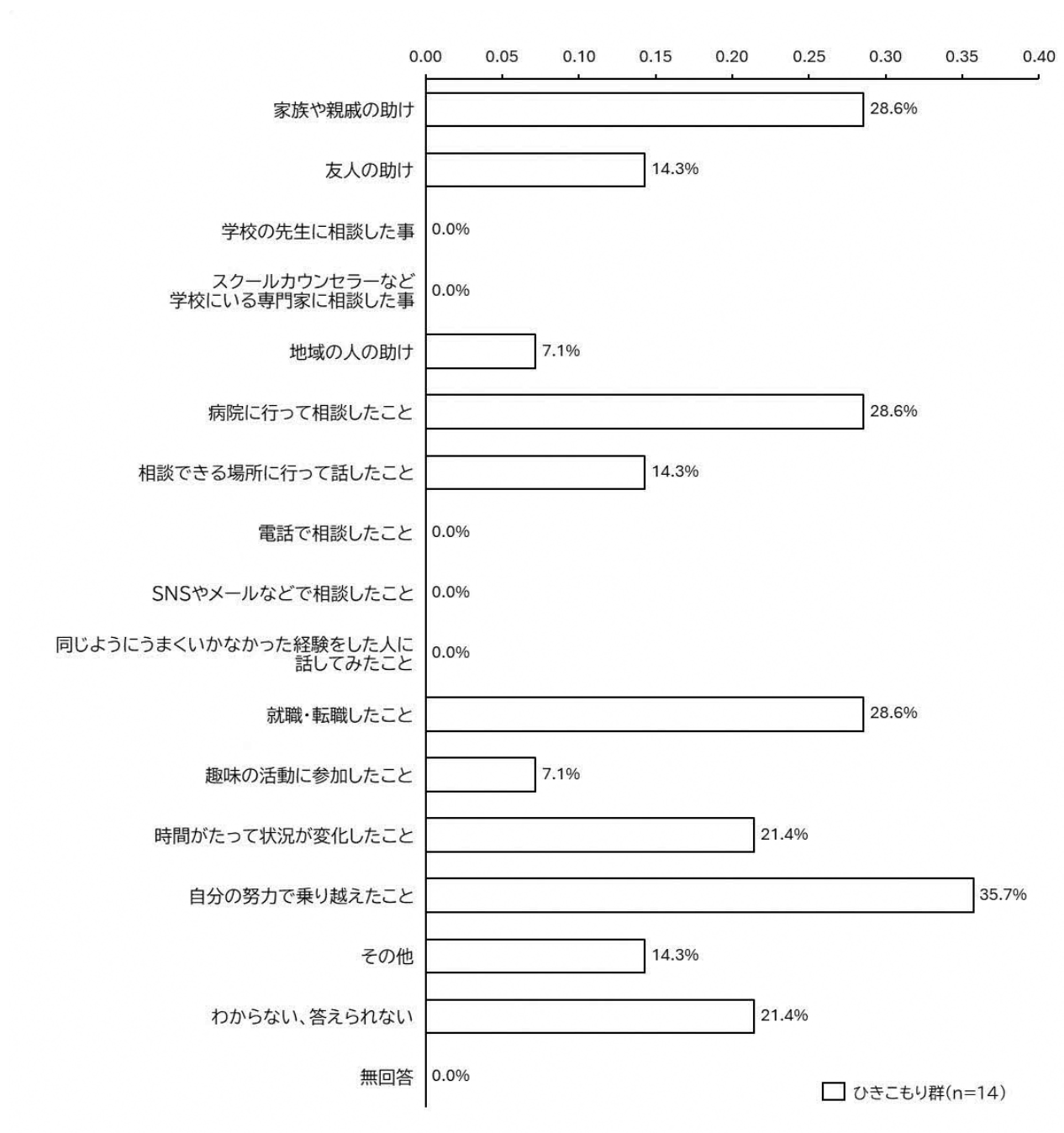


「あった」または「どちらかといえば、あった」が 45.2%となっている。

※Q32 は、Q31 において日常生活や社会生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がある者(「1 あった」「2 どちらかといえば、あった」を選択した者)のみが回答する項目となっている。

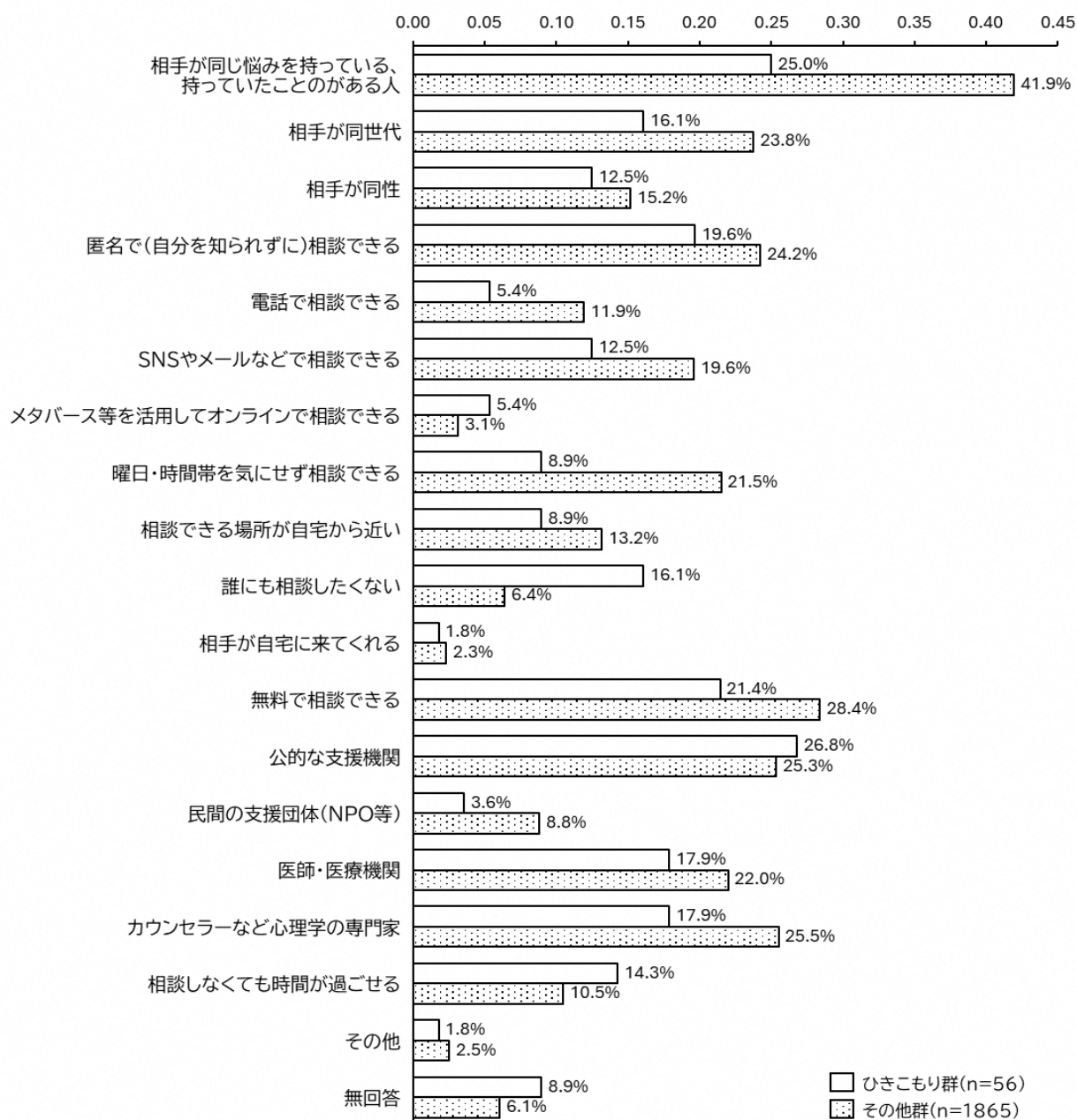
本報告書ではその中でもひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

Q32 日常生活・社会生活を円滑に送ることが出来なかった状態が改善したきっかけ・役に立ったこと(複数回答)



「自分の努力で乗り越えたこと」が 35.7%で最も多く、次いで「家族や親戚の助け」「病院に行って相談したこと」「就職・転職したこと」がそれぞれ 28.6%となっている。

Q33 日常生活・社会生活を円滑に送ることが出来なかった状態となったときに家族・知合い以外に相談したいと思う人・場所(複数回答)

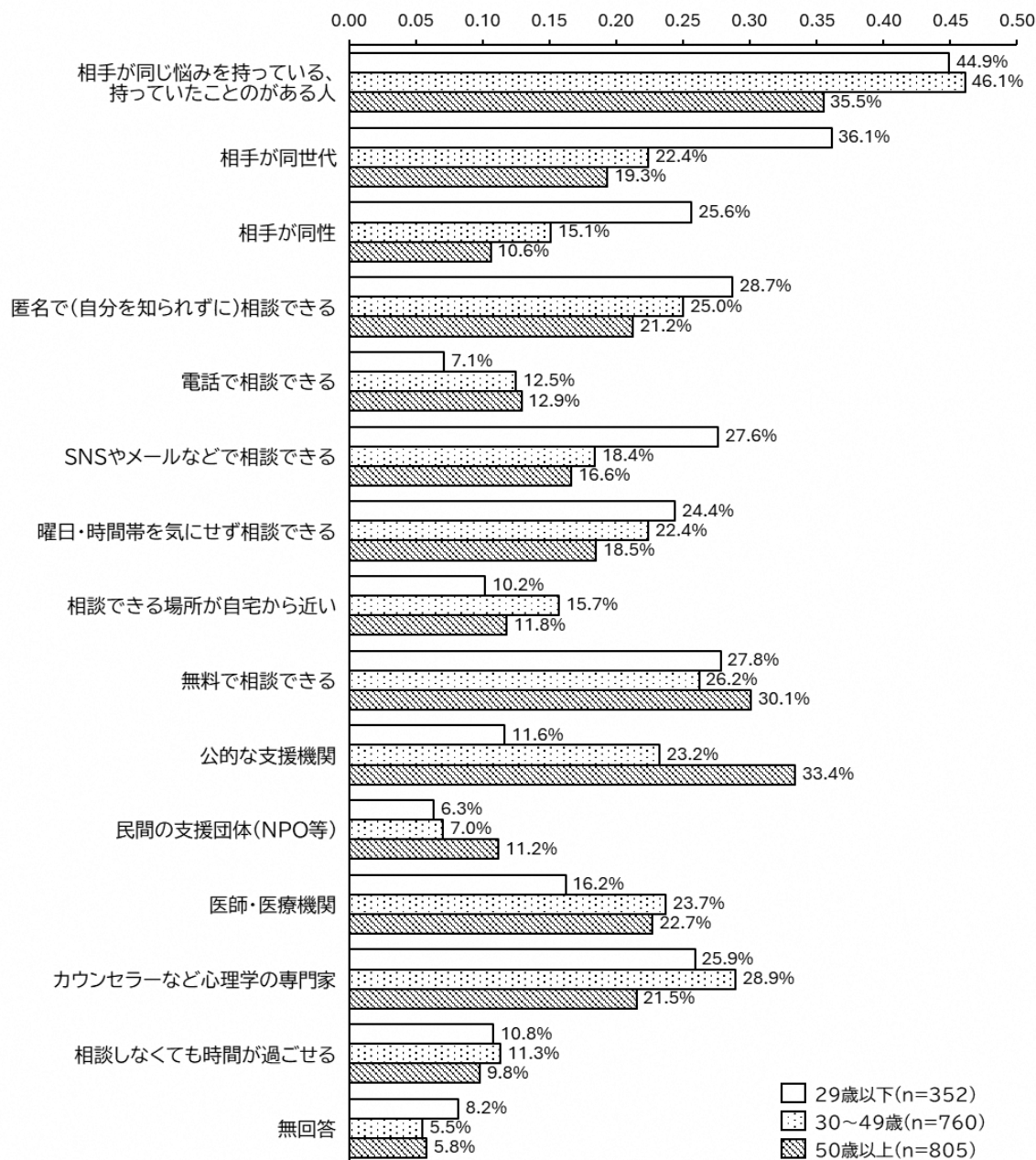


ひきこもり群では「公的な支援機関」が 26.8%で最も多く、次いで「相手が同じ悩みを持っている、持っていたこと」25.0%となっている。

一方、その他群では「相手が同じ悩みを持っている、持っていたこと」が 41.9%で最も多く、次いで「無料で相談できる」28.4%となっている。

Q33 日常生活・社会生活を円滑に送ることが出来なかった状態となったときに家族・知合い以外に相談したいと思う人・場所【年代別】(複数回答)

※いずれかの群において10%以上となっている選択肢のみを抜粋

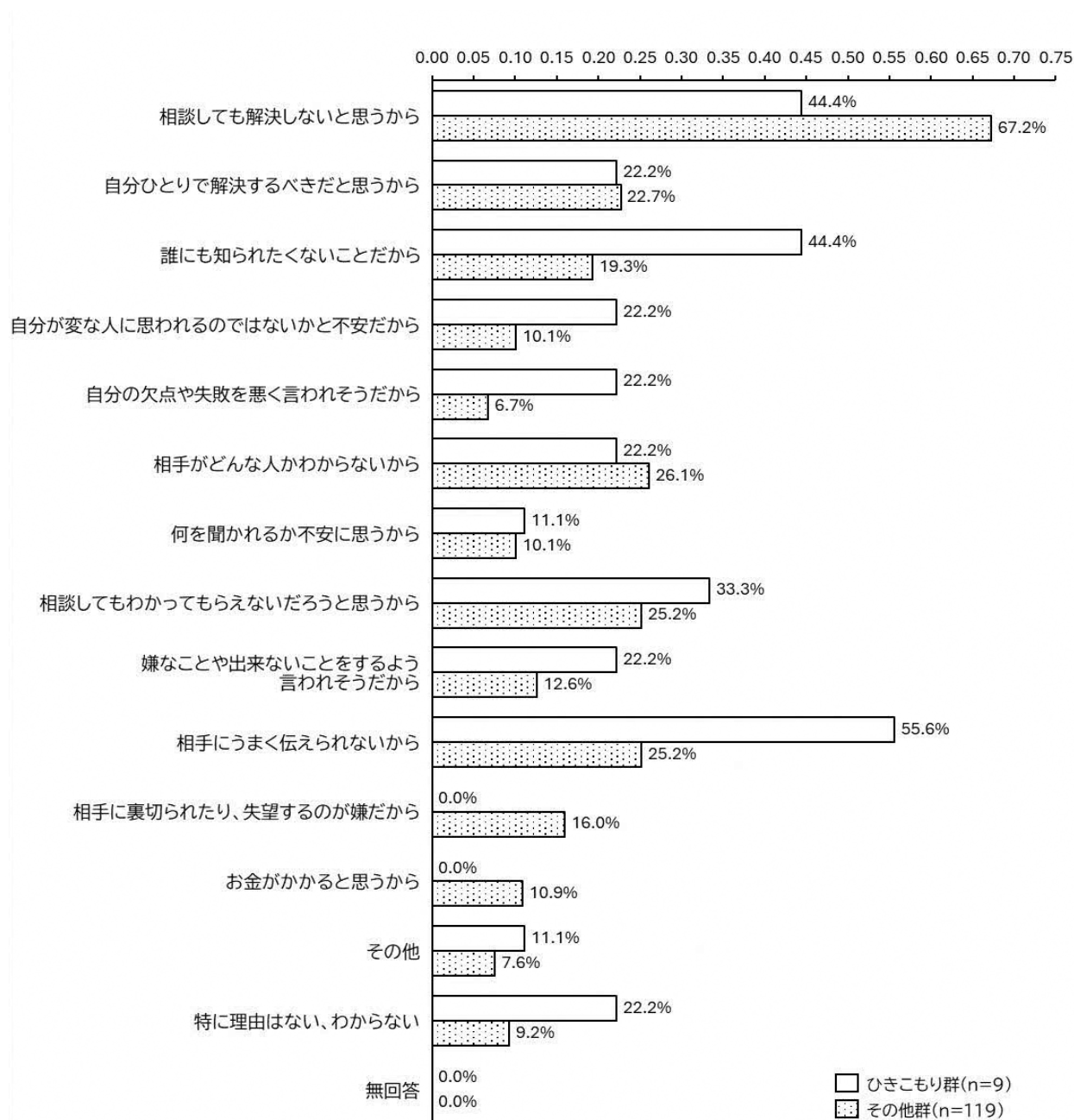


年代にかかわらず「相手が同じ悩みを持っている、持っていたこと」が最も多くなっている。

一方、若い世代ほど「相手が同世代」、「相手が同性」、「SNSやメールなどで相談できる」を重視し、「公的な支援機関」であることへのこだわりは少ない傾向がある。

※Q34 は、Q33 において誰にも相談したくない者(「10 誰にも相談したくない」を選択した者)のみが回答する項目となっている。

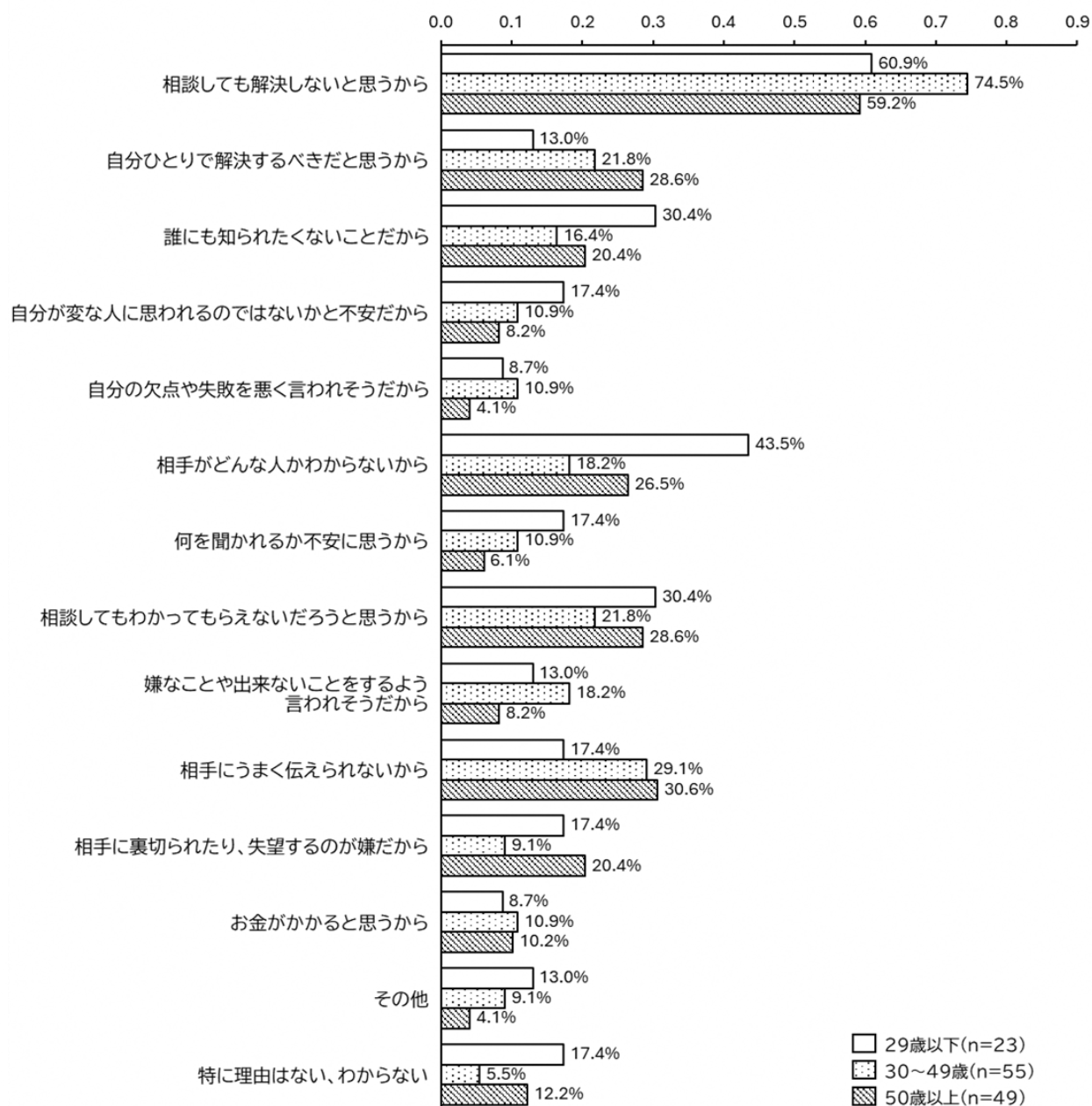
Q34 相談したくないと思う理由(複数回答)



ひきこもり群では「相手にうまく伝えられないから」が 55.6%と最も多く、次いで「相談しても解決しないと思うから」「誰にも知られたくないことだから」がそれぞれ 44.4%となっている。

その他群では「相談しても解決しないと思うから」が 67.2%で最も多く、次いで「相手がどんな人かわからないから」26.1%となっている。

Q34 相談したくないと思う理由【年代別】(複数回答)



世代にかかわらず「相談しても解決しないと思うから」が最も多くなっている。
一方、29歳以下では「相手がどんな人かわからないから」が43.5%で2番目に多く、若年層の相談の制約になっている可能性がある。

なお、Q33において「10 誰にも相談したくない」を選択した者のうち1名が年齢(Q2)を無回答だったため、合計値が異なる。

1.6 相談できる専門家・支援機関

Q35, 36 相談できる専門家・支援機関の認知度及び相談状況

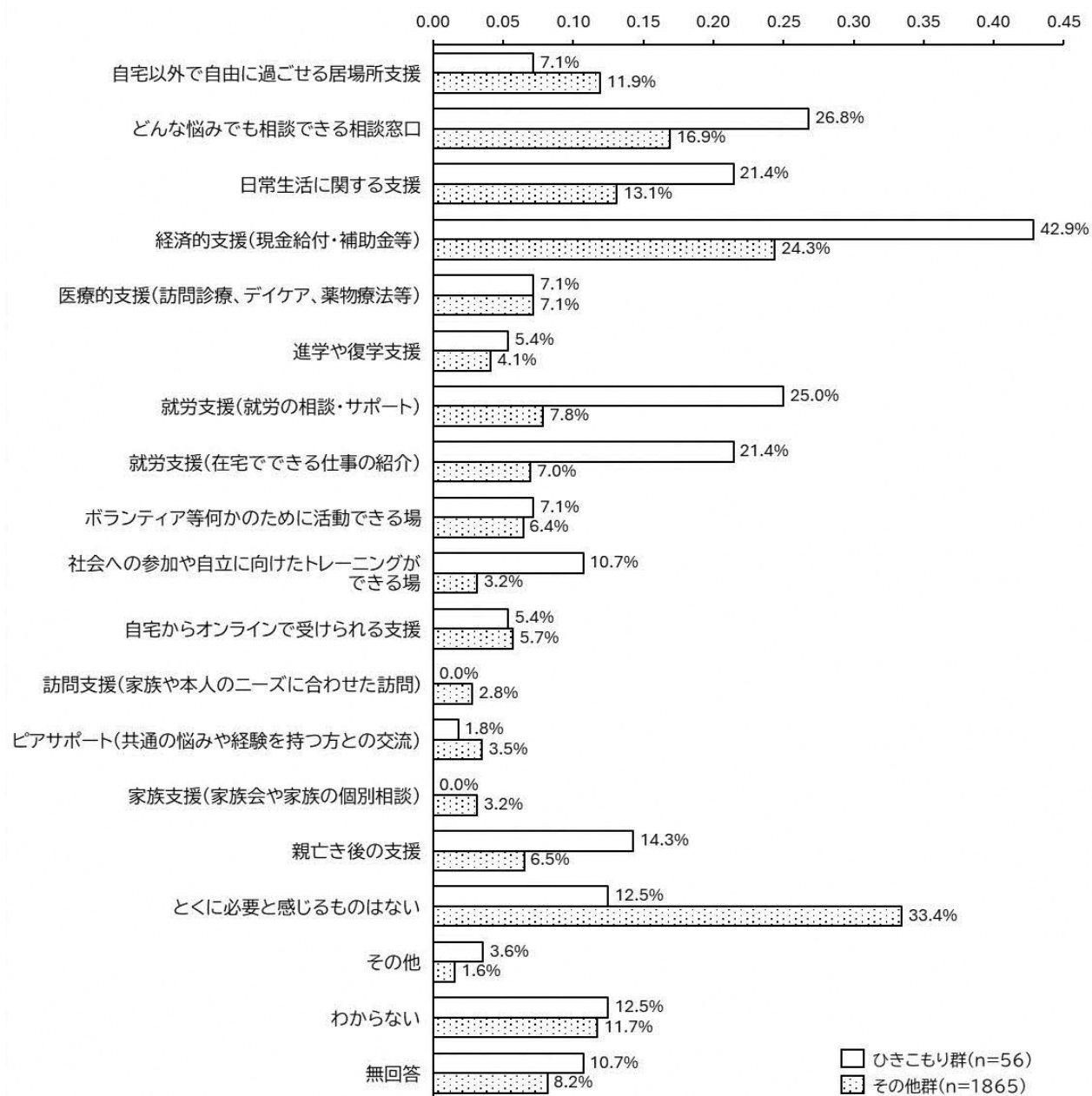
支援機関名	ひきこもり群 (n=56)		その他群 (n=1865)	
	認知度	相談割合	認知度	(相談割合)
職業安定所(ハローワーク)・地域若者サポート				
ステーションなどの就労支援機関	35.7%	16.1%	31.5%	9.2%
保健所・保健センター	28.6%	3.6%	36.4%	5.2%
福祉事務所	28.6%	14.3%	24.4%	4.4%
病院・診療所	25.0%	8.9%	36.0%	13.8%
地域包括支援センター	19.6%	3.6%	30.3%	6.4%
障がい福祉課	12.5%	5.4%	11.1%	1.7%
福祉まると相談課	10.7%	0.0%	9.1%	0.9%
障がい福祉センター	8.9%	1.8%	16.9%	1.7%
セーフティネットあだち (相談・居場所)	8.9%	0.0%	9.4%	0.3%
精神保健福祉センター	7.1%	0.0%	6.2%	0.3%
ジョブサポートあだち	7.1%	5.4%	2.4%	0.2%
社会福祉協議会	3.6%	0.0%	9.7%	1.1%
あだち若者サポートテラス SODA	3.6%	0.0%	2.3%	0.2%
東京都ひきこもりサポートネット	3.6%	1.8%	3.3%	0.1%
足立区内の当事者の会・家族会	0%	0%	1.5%	0.1%
足立区以外の当事者の会・家族会	0%	0%	1.1%	0.2%
その他の民間の相談機関・支援機関(NPO 等)	0%	0%	1.8%	0.8%
その他の施設・機関	0%	0%	0.8%	2.8%
どこも知らない/ 相談したことがない	32.1%	51.8%	27.2%	54.8%
無回答	7.1%	14.3%	8.7%	14.4%

ひきこもり群とその他群では、各支援機関の認知度には大きな差はみられない。

また、支援機関を知っていても相談していない人の割合が多く、「相談したことがない」を選択した者が 51.8%となっている。

1.7 必要としていること

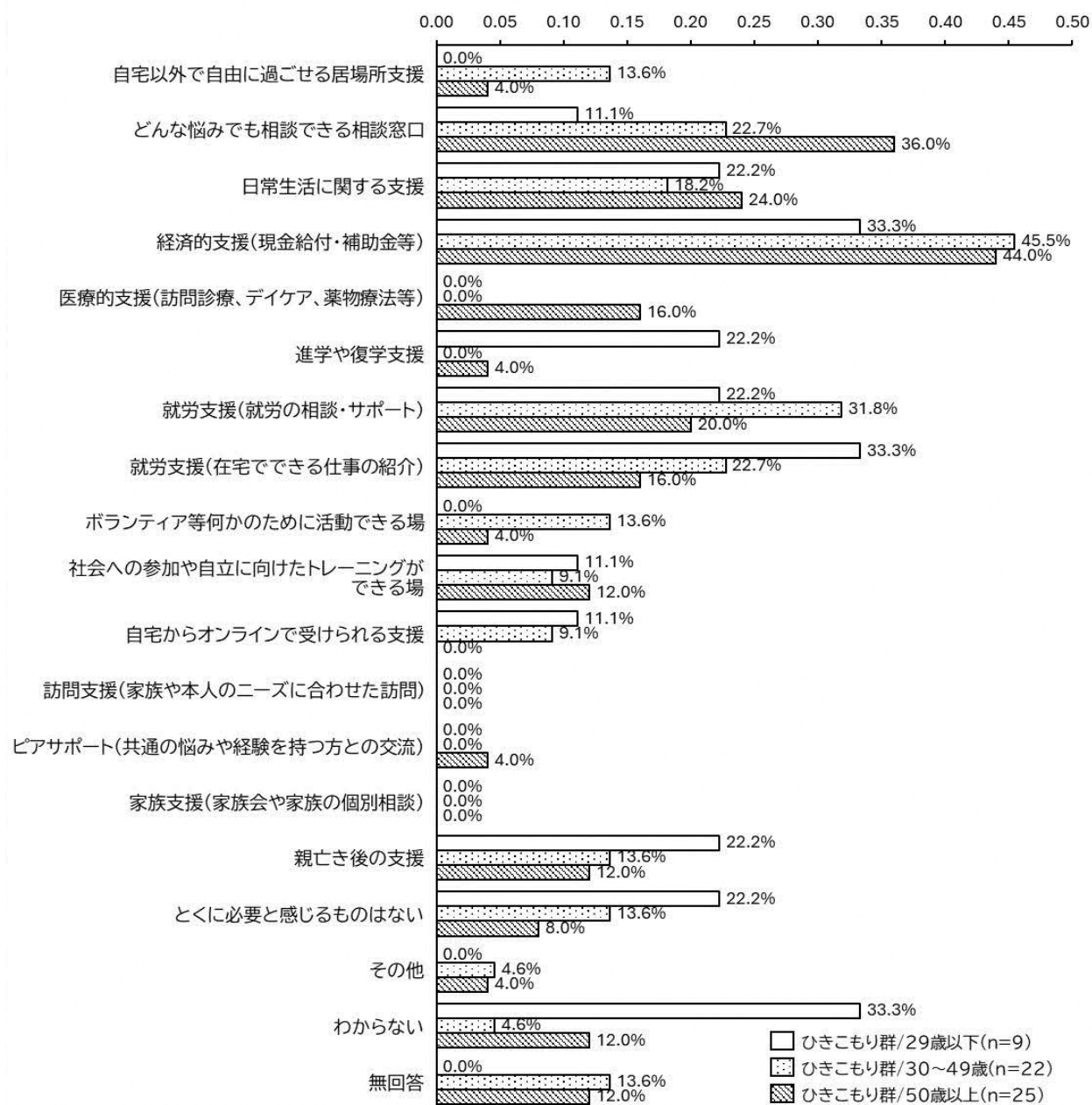
Q37 現在必要だと感じるもの(複数回答)



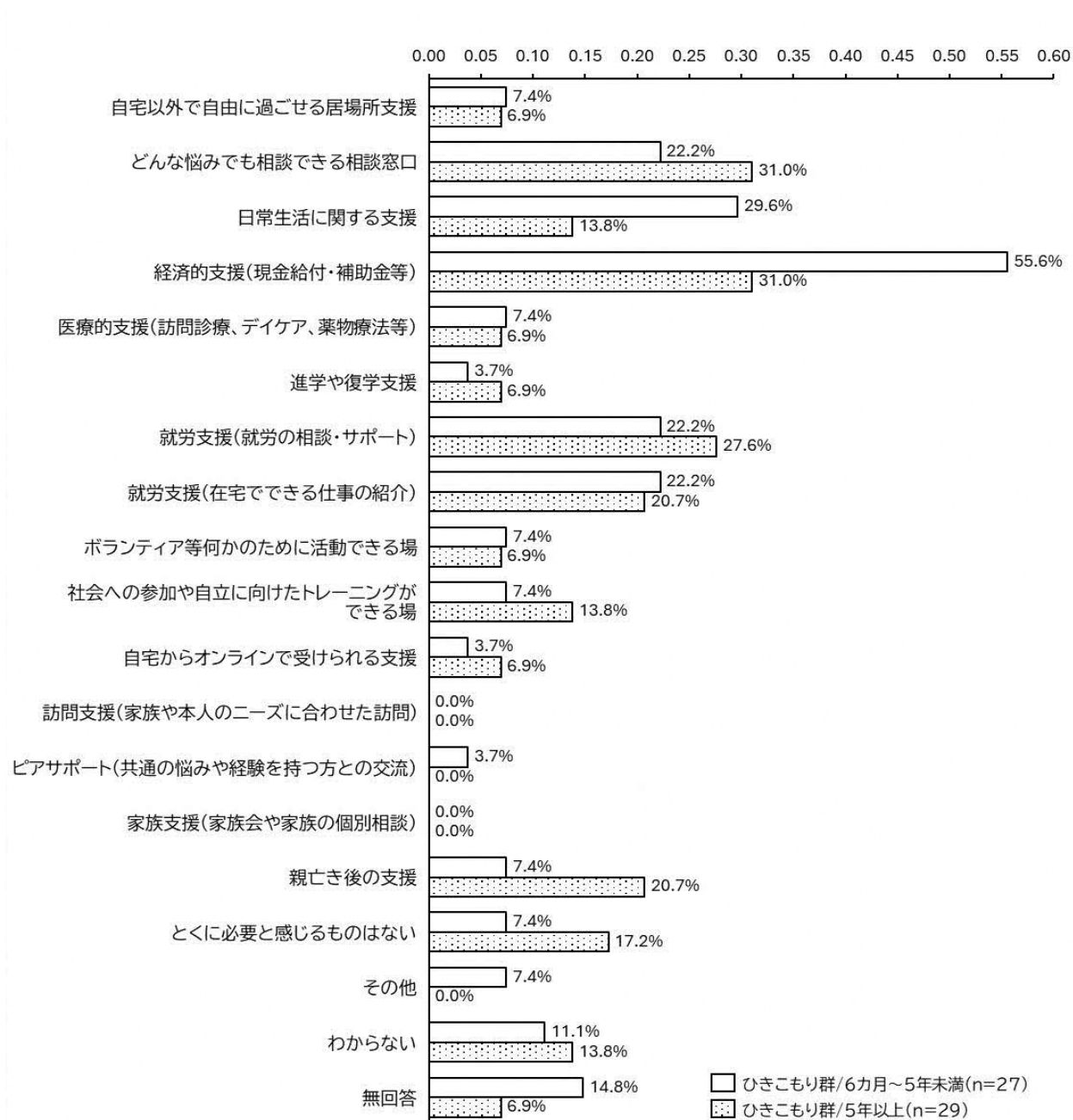
ひきこもり群では「経済的支援（現金給付・補助金等）」が 42.9%で最も多く、次いで「どんな悩みでも相談できる相談窓口」26.8%となっている。

一方、その他群では「とくに必要とを感じるものはない」が 33.4%で最も多く、次いで「経済的支援（現金給付・補助金等）」24.3%となっている。

Q37 現在必要だと感じるもの(複数回答) × Q2 年齢

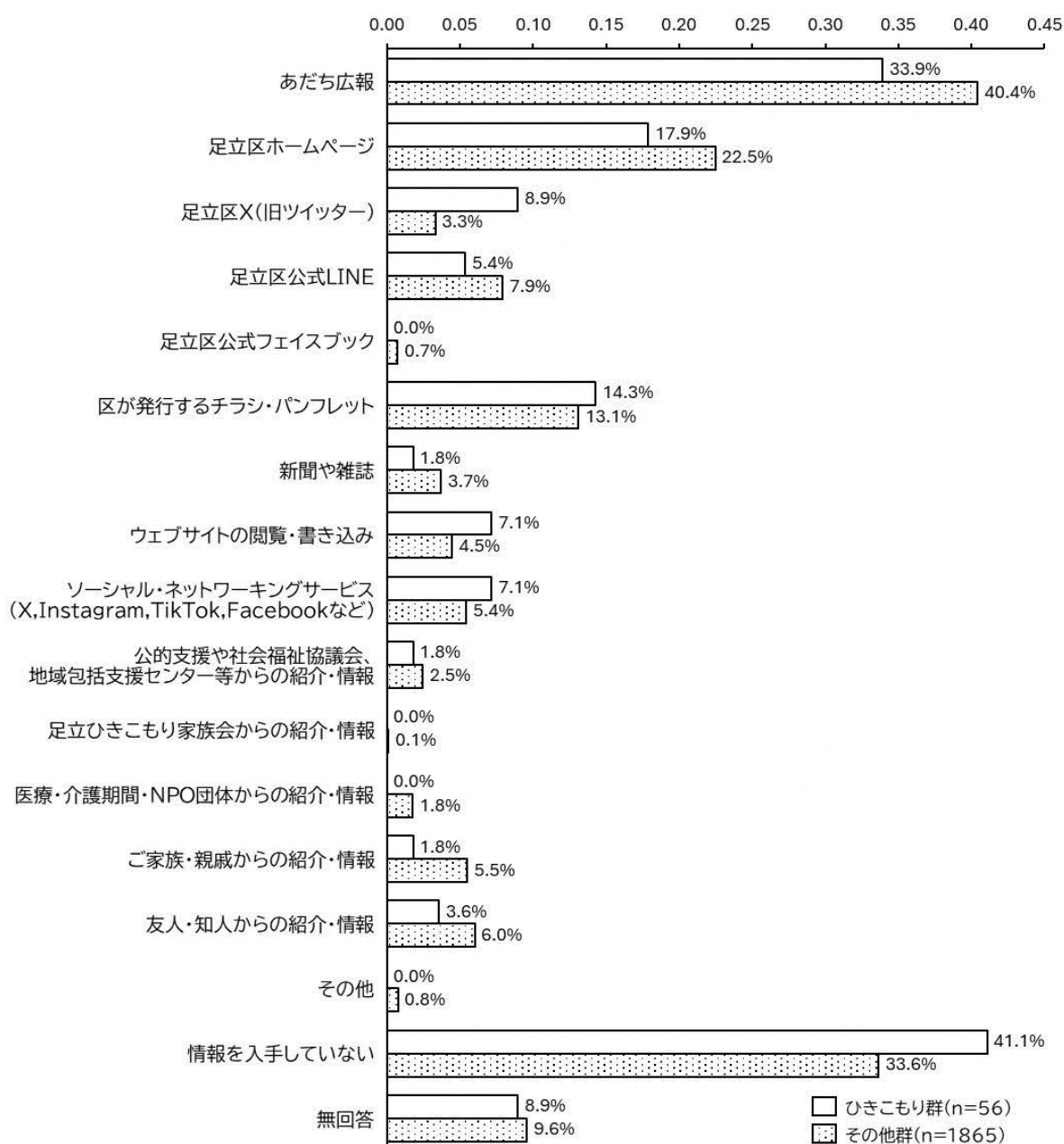


Q37 現在必要だと感じるもの(複数回答) × Q25 現在の外出状況になってどのくらい
経つか

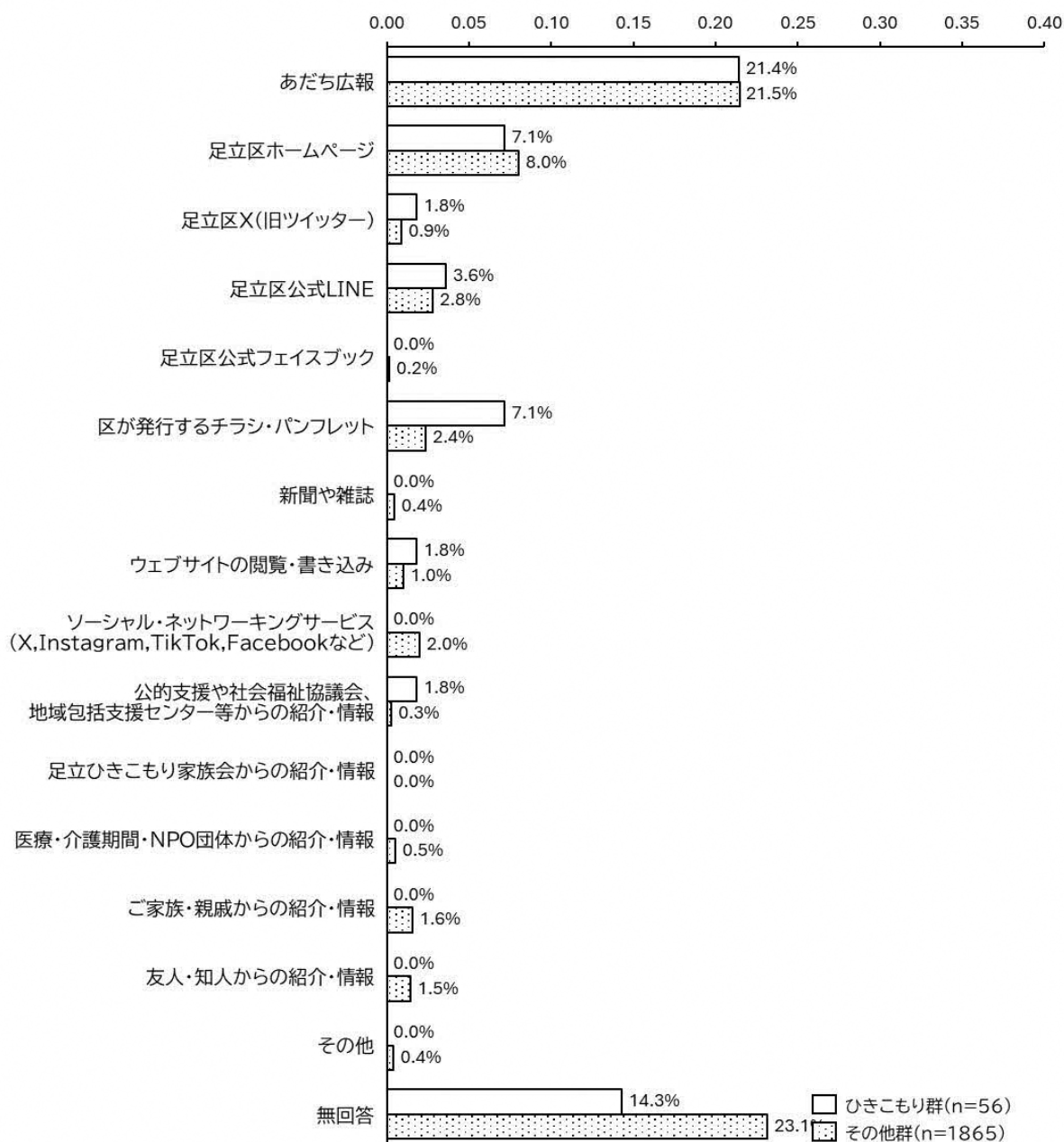


1.8 情報の取得手段

Q38 足立区の支援についてどのように情報を入手しているか(複数回答)



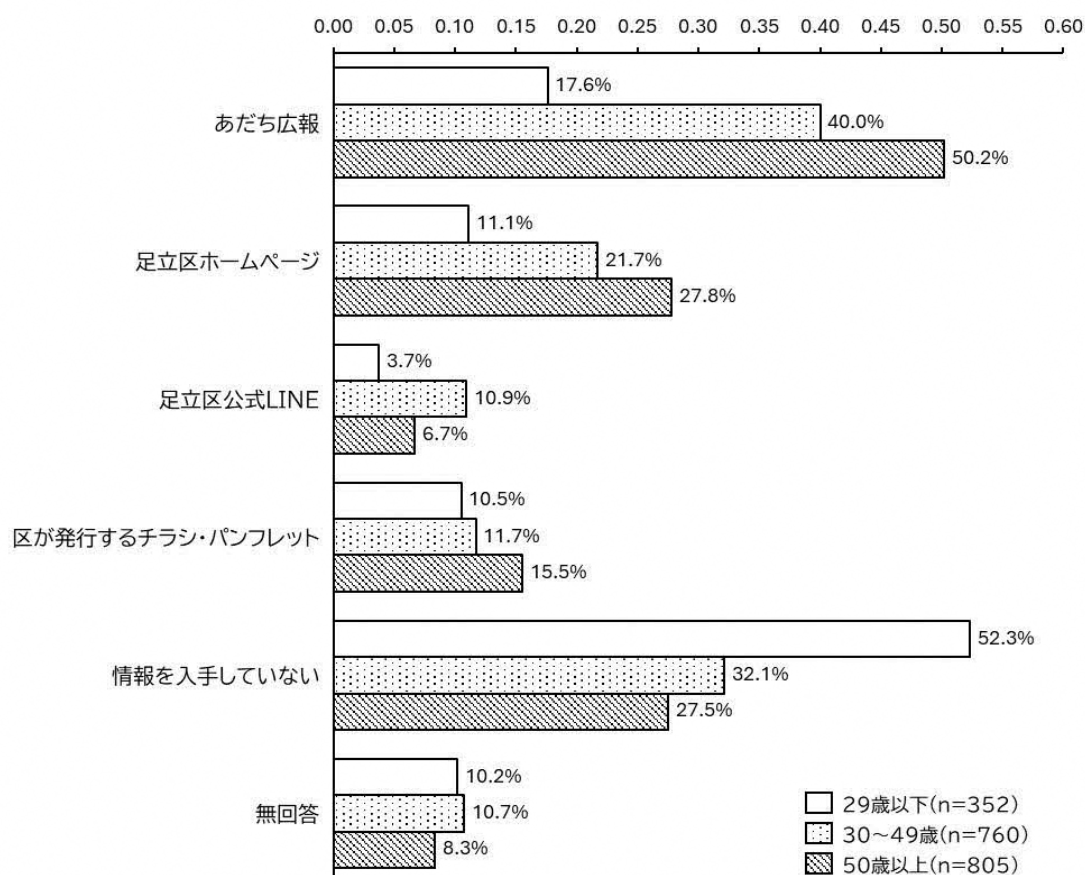
最も利用する手段



ひきこもり群では「情報を入手していない」が 41.1%で最も多く、次いで「あだち広報」33.9%となっている。一方、その他群では「あだち広報」が 40.4%で最も多く、次いで「情報を入手していない」33.6%となっている。

最も利用する手段としては、両群ともに「あだち広報」が最も多くなっている。

Q38 足立区の支援についてどのように情報を入手しているか【年代別】(複数回答)
 ※いずれかの群において10%以上となっている選択肢のみを抜粋



年代にかかわらず「あだち広報」が最も多くなっているが、29歳以下では17.6%に留まっている。

また、29歳以下の52.3%は「情報を入手していない」を選択している。

19 悩みや困りごとを抱える方たちへの支援の在り方

Q39 悩みや困りごとを抱える方たちへの支援の在り方

以下では回答の一部を抜粋した。なお、基本的に原文のまま掲載しているが、回答から個人が特定できないよう一部加工している。

ひきこもり群(n=56)

様々な形で支援相談できる場所があると言う事が知ることができまして、必要に応じて相談等々できればと思います。また、このような場所があるんだという事を、多くの人に知ってもらえることも重要だと考えます。

もっとどういうことをしていて、どういうのがあるのか区民に知ってもらう必要があると思います！

ほとんど初めて聞きました！

知ってる人だけが利用でき、知らない人は一切利用していない状況で、差が生まれてしまうのはどうなのかなとも思いました！

- ・何らかのコミュニティ交流支援
- ・就職斡旋に繋がる職業訓練（リスキリング、リカレント、スキル習得）支援
- ・新しい時代、技術に対応するデジタルスキル、AI人材育成支援

些細なことでも聞いてくれて、具体的な対処法などの案を提示してもらえる窓口、オンラインでもいいと思う。活用できるものがあるのか、無いのかさえわからないので、総合的な案内があだち広報だと思うけど、目の不自由な私としては読むのはかなりハードルが高いし、そこから探すのも大変だからです。

結局のところお金の絡みが関係するので、支援金で生活の支えが欲しい。または支給以上の支出の部分（国保や年金）の減免や減額を考えて欲しい。

傷病手当以外に経済的支援があると良い。

20 現在や将来についての不安

Q40 現在や将来のことについて不安に思うこと

以下では回答の一部を抜粋した。なお、基本的に原文のまま掲載しているが、回答から個人が特定できないよう一部加工している。

ひきこもり群(n=56)

すべてに不安。

- ・具合が悪くても交通費がないし、救急車を呼ぶにしても何回も呼んでいるからと救急隊に断られた。
- ・部屋が2部屋だが冷房が1台しかなく、真夏でもガマンした。
- ・福祉のワーカーさんに相談したけど、無理と言われた。

生活保護を、今現在、受給していますが、なくなってしまったら…。と思っています。

とくに不安があります。なかなかお仕事がみつからないのが不安です。将来のために今はお仕事をさがしています。これからはこの先どうやって生きて行こうと考えます。

自分が先に死んだ時、母親の介護ができなくなる恐怖

現在、仕事をしてないので全く収入がなく不安です。今のところは両親のお世話になり申し訳なく思っています。何か仕事をしなければと思いつつ、悩んでばかりで中々動けません。

世の中の人の流れについていけるのか不安ではあります。保険証がマイナ保険証に変わっていく等々、今の時代スマートフォンを使いこなしていけないとダメですね。

これから先、親の面倒、介護を一人で看なければいけない。自分が1人になった時、老後の事を考えると不安でしかない。

そろそろ就労しないといけないなと思っています。

一緒に暮らす家族と離れることになったらと思うと何も考えられない。自分の方が先に死ぬ方が幸せなのかと思うことがある。

子どもがいないので、老後の経済面が不安です。

また、夫が先に亡くなったてしまったら、一人で生きて行けるのか、孤独死してしまったらどうするのか、不安で仕方ありません。

前の職場が自分に合わず、働くことへの自信が無くなってしまった。

働かなきゃいけないとは思っているが、自分の就きたい職が見つからない、探し方がわからない。

- ・交際、結婚や子どもの希望、展望がないこと
- ・老後の社会保障制度に期待を持ってないこと

早く健常な状態に戻って社会復帰したいが、中々回復せず、いつになったら元に戻れるのか不安。

将来前と同じ生活に戻れるのか不安。

自分が何歳まで生きられるのかと、生きているだけで生活費がかかるので、経済的に困窮することがないのかを不安に思っています。

